

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定 実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程学習指導	①専門性を追究した教育活動を充実させる。 ②商業と工業の連携による特色ある教育活動を実践する。 ③学力及び技術技能の基礎力を確実に定着させる。 ④学習指導方法の改善を推進する。	①③基礎学力の定着をはかるとともに、共通教科および専門教科の発展的学習を充実させ、上級の資格取得を推奨。 ④「主体的・対話的で深い学び」の実践。	①各教科で計画的に資格や検定取得の有用性を生徒に認識させる主体的に取り組める授業を目指す。 ③④生徒の主体的・対話的な学びを充実させるために、55分授業を効果的に展開する。	①さまざまな資格取得にチャレンジした結果、例年に比べ、合格した生徒数が増えたか、上級の資格取得に挑戦する生徒が増加したか。 ③④授業改善の結果、「主体的・対話的で深い学び」を実現したか。	①危険物取扱者(乙1～6類、丙)の取得を目指すよう指導し、乙1は1名、乙3は2名、乙4は9名、乙5は5名、乙6は4名、丙種は2名の生徒が取得した。 ①第二種電気工事士実技試験12名中11人合格。工事担任者DD3種4名中3名合格、1名科目合格。電気工事士は他科の生徒も合格した。 ①ものづくりコンテストの参加を通し生徒へ専門技術の大切さと、ものづくりの楽しさを教えた。その結果、化学分析部門では神奈川県で6位に入賞する成果を得た。 ②新教育課程の選択科目「ものづくり実践」について学校設定科目として申請した。 ③授業力向上研修会により、優れた実践を共有することができた。 ③④課題研究を充実させ、生徒主体で取り組んだ。多くの生徒が放課後などの時間を活用した。	①一部の資格の中で、人数制限があり受験できない生徒がでた。実施回数を増やす検討を願いだした。 ①講習会に参加する意欲的な生徒は合格率も高い。今年度は授業時間が短縮され、講習会やその準備に当てられる時間が十分確保できた。元に戻れば合格率は下がる。 ③ICTの活用が増えた。職員の研修の機会が増えた。研修の内容を広く授業内容に展開できるようにしたい。 ③④担当の教員以外でも、いつでも生徒のニーズに対応できる体制を作る。	(保護者) ①「資格取得・各種検定の受検を積極的に行う」に関しては、82%が「十分またはほぼ十分である」と回答している。 (学校運営協議会) ①さまざまな資格取得、コンテストの入賞等は教育の成果として評価に値する。 ①課題点として授業時間が元に戻ると合格率は下がるとあるが、合格率の維持向上に向けた工夫が図られることを期待する。 ②商業と工業の連携による特色ある教育活動を実践する。本校は他校にない商工連携による特色ある学習により、製品開発・製造工程及び原価の低減、販売促進を相互に理解しながら会社発展に寄与すべく教育学習を学んだことは生涯の支えとなることであろう。 ③学力及び技術技能の基礎力を確実に定着させる為、商業簿記・原価管理等の資格取得も必須。社会人として、企業人としての活躍を期待しています。 ④ICTの活用強化も今後さらに必要になってくると思いますが、限られた予算の中でどう対応できるのか、個々のご家庭の都合もあると思うので、格差が広がったりしないか等の懸念はありますが、PTA活動も含めて何らかの対応を模索できないかと思えます。	④新型コロナウィルスによる休業・分散登校等例年とは異なる状況もあり、資格試験等も実施できない時期もあったが、2学期以降の積極的な取り組みによりある程度の結果を出すことができた。 ③休業期間中の学習等にICTを取り入れたこと等もあり、授業へのICTの活用が進んだ。 ④授業力向上研修会を実施し、優れた授業実践を教員間で共有することに より生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる取り組みを行った。	①資格取得・各種検定については、基礎的な資格等を全員が合格することができるよう今後も継続的に取り組んでいく必要がある。また、より上級の資格取得にチャレンジしようとする生徒の意欲を引き出す努力が必要である。 ③ICTの活用は年々進んでいるが、さらに生徒の主体的・対話的な学習のためのコンテンツの充実を図り、学びをより深めるために工夫をしていく必要がある。
2 生徒指導・支援	①基本的生活習慣の確立を図る。 ②社会人基礎力と豊かな人間性を育む。 ③主体性を育み自立した人間の育成を図る。 ④教育相談体制の充実を図る。 ⑤学校行事等や部活動の活性化を図る。	④多様な生徒に対応するため、SC及びSSWを活用し外部機関との連携を図るとともに、校内組織の充実。 ⑤学校行事の活性化を図る。	④カウンセラーの来校予定と希望生徒の日程を明確にするために教職員、保護者、カウンセラーと情報共有を確実に図る。ケース会議の情報を全教職員で共有する。 ⑤学校行事の活性化を図るために、年間の行事予定や行事の内容を柔軟に工夫する。	④毎月のカウンセリング日程等の情報共有システムが構築できたか。 ⑤学校行事が円滑に実施されたか。 ⑤柔軟な工夫が学校行事の活性化につながったか。	④今年度の実施回数はカウンセリング53回(生徒37回、保護者9回、担任7回)、ケース会議6回、SSWとの協議3回であった。教職員・保護者・SCとの情報共有を確実に図った結果、保護者・担任との情報交換や対応策の協議の場も増え、またケース会議を通じて関係教職員への情報提供、対応策の周知徹底を図ることができた。 ⑤臨時休校に伴う行事の変更に対応し、10月末に予定していた文化祭を感染予防の観点から中止し、6月に実施できなかった体育祭を改めて立案し、実施した。実施に際しては、常に感染予防を念頭に、実施種目や配置を大幅に変更した。体育祭の応援リーダーのパフォーマンスも各色がそれぞれ自分たちで内容を工夫し、練習計画を立て、当日その成果が発揮できた。また、文化祭の代替行事として12月に文化週間を新たに実施した。多くの生徒がその発表や展示を目にできるように工夫し、今年度活動を充分できなかった文化部を中心とした生徒に活動と発表の場を設けることができた。	④担任や養護教諭に勧められて受診をする生徒が多く、担任や教科担当者、部活動顧問など生徒に関わる職員が、今まで以上に生徒の学校における状況の把握に努めることが必要である。またSC受診の敷居を低くし、些細なことでも相談できるような体制づくりも必要であるため、生徒へ向けての情報発信をさらに進めていく。 ⑤体育祭では、新たな種目がほとんどであったが、今後は今年度の反省をもとに、今後も状況に柔軟にたいおうしながら、さらに種目内容を精査していく。 来年度、文化祭が行える状況ではなくなった場合には、今年度同様文化週間などの代替行事の提供を検討する。	(保護者) ④「カウンセリング等の取り組み」に対しては、66%が「十分またはほぼ十分である」と回答し、26%が「よく分からない」と回答している。 ⑤「学校行事の活性化」に対しては、71%が「十分またはほぼ十分である」と回答している。新型コロナウィルスの影響で文化祭は中止にせざるを得なかったが、体育祭・文化部発表会等の実施が評価されたようである。 (学校運営協議会) ④適切な情報共有やケース会議等を通じた対応策の周知徹底が図られており評価できる。 ⑤コロナ禍にあり、授業だけでなく行事の変更等これまでにない対応が必要となり、大変な苦労があったと思うが、そうした中で柔軟な対応を図られたことは評価できる。今後とも生徒の自主性を重んじながら、柔軟な発想のもと行事の活性化が図られることを期待する。 ⑤臨時休校による授業時間の短縮などがありながら、生徒指導が良く行われていると評価できます。	④問題を抱える生徒に対するカウンセリングを細やかに実施した。また、ケース会議・情報交換会を適宜実施し、配慮すべき生徒への対応の仕方について、各教員の資質向上に努めるべきである。 ⑤学校行事については、新型コロナウィルスへの対応もあり、文化祭を中止せざるを得なかったが、感染対策を徹底することにより体育祭や文化週間・球技大会等を実施し、生徒の自主的な行事運営を確保することができた。	④カウンセリングに関する情報共有は確立されているが、表面的には見えにくい様々な問題を抱えた生徒に対する理解や対応の仕方について、各教員の資質向上に努めるべきである。 ⑤学校行事については、例年の焼き直しに終わることなく常に工夫し生徒がより主体的・意欲的に取り組めるように改善していくことが求められる。
3 進路指導	①实际的・体験的学習の機会拡大と充実を図る。 ②勤労観や公共	②進路未決定者ゼロ。 ③進学・就職にかかわる事故防止の	②生徒の求める情報を適切に提供できるように工夫して自主的に活用できる環境を作	②生徒が自主的に活用するため整備ができたか。 ②進路未決定者	②求人情報を生徒が自主的に活用できるよう、色分けや職種別など、生徒が活用しやすい環境となるよう、進路閲覧室などを整備した。 ②就職を希望し、熱心に活動した生徒	②今年度は、進路ガイダンスを実施する機会が、例年よりも少なくなってしまう、進路に関する指導が不十分であったことも否めない。生徒の進	(保護者) ②「進路指導」に関しては、例年よりもガイダンスの機会が減ったが、74%が「十分またはほぼ十分である」と回答している。3年生は就職試験が1ヶ月ずれたが、指導はほぼ例年通り実施できた。	②進路閲覧室を大幅に整備し直し、生徒が自主的に閲覧しやすい環境を提供できた。	②進路閲覧室の整備をさらに進めると共に、生徒の進路に対する意識をもっと早い時期から持

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価(3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
支援	心、社会奉仕の精神を涵養する。 ③進路相談体制の充実を図る。	徹底。	る。 ③進学・就職にかかる調査書・推薦基準の確認を複数で2回以上行う。	をゼロにすることができたか。 ③チェック体制を確保したか。	については、内定率100%を達成することができた。 ②特別な事情のある生徒を除き、進路未決定者をゼロにすることができた。 ③進学・就職にかかる事故をゼロにすることができた。	路決定に有効な情報を提供し、進路に関する生徒の意識を高めることができるよう、引き続き進路ガイダンス等を工夫し、充実させていかなければならない。	(学校運営協議会) ②進路指導が十分にできない状況にあっても、就職希望生徒の内定率100%達や進路未決定者ゼロについては、丁寧な指導によるものと評価できる。今後も、進路ガイダンスの工夫・充実が図られ、引き続き丁寧な指導がなされることを期待する。 ②特別な事情がない生徒については、進路未決定者ゼロは、こういう時期にすばらしい結果だったと思います。 ②進路指導も内定率が100%を出せたこともこの時代に驚きも感じました。しかしながら、マッチングが本当にできていたのかどうかや、資格試験に落ちた生徒などへのメンタル面のフォローを丁寧にできちならないようにすることも大切と考えます。	②就職試験が例年より1ヶ月繰り下げられる事態となったが、個別指導を細やかに行うことにより例年と変わらず就職内定率100%を達成することができた。 ③複数教員によるチェック体制をとり、就職・進学に関する事故をゼロにすることができた。	たせるべく、進路ガイダンス等の時期や形式を工夫していく必要がある。 ②進路指導にもICTの活用を積極的に進める工夫が望まれる。 ③進学・就職に関する手続きに事故は絶対あってはならないので、慢心することなく事故防止のための更なる工夫をしていくべきである。
4 地域等との協働	①学校運営協議会制度を活用した、地域との協働を図る。 ②コンソーシアムの活用。 ③広報活動を充実させ情報の発信を推進する。	②コンソーシアムの活用。 ③中学生やその保護者に向けたPR活動の充実。	②上級の資格取得に挑戦する生徒の主体的な学びへとつながる外部機関と連携する。 ③学校説明会、学校ホームページの更新等を活用し、中学生、地域住民への継続的な情報発信を行う。	②コンソーシアムを活用し教育活動を実践したか。 ③ホームページを活用し、学校に関する様々な情報が、分かりやすく、かつ適切に提供できたか。	②大原情報簿記専門学校と連携し、上級資格取得への取り組みが行われた。 ③学校説明会は回数減となったが、ミニ学校説明会(平日開催)を開催するなどして情報発信を推進した。	②コンソーシアムの活用をはじめ、地域との協働もコロナ情勢によるところが大きい。 ③ホームページを活用した情報発信が課題である。	(保護者) ②「外部機関との連携」については、3年生の保護者は約70%が「十分またはほぼ十分である」と回答している。しかし1、2年生の保護者は52%と評価が低い。 ③「情報発信・広報活動」については、2、3年生の保護者は64%が「十分またはほぼ十分である」と回答している。ただし、1年生の保護者は42.5%と評価が低い。 (学校運営協議会) ②生徒の主体的な学びの推進は重要であるため、専門学校との連携し上級資格取得に取り組まれたことは評価できる。 ③ホームページによる情報発信については、内容の充実引き続き努めてほしい。 ③ミニ学校説明会の開催ときめ細かい対応が素晴らしいと考える。 ③ホームページの活用はPTAでも取り組みないかと感じております。また、一方的な利用だけではなく、アンケート調査などで双方向での利用などができないものでしょうか。	②新型コロナウイルスへの対応のため、インターンシップや地域貢献活動などを実施することができなかったが、専門学校との連携による資格取得への取り組み等を実施した。 ③学校説明会の回数は減らさざるを得なかったが、それを補うために新たな取り組みとしてミニ学校説明会を6回実施し、中学生やその保護者への情報発信を積極的に行った。	②外部機関との連携は、生徒の意識や意欲を高め視野を広げるために重要である。今後も様々な企業や団体と新たに連携できるような努めていく必要がある。また、1、2年次にも外部機関との連携の機会を増やす努力をすべきである。 ③ミニ学校説明会の振り返りをしっかり行い、次年度以降の取り組みを充実させる工夫をすべきである。
5 学校管理 学校運営	①ミッションに沿った学校経営の推進を追究する。 ②安全安心な学習環境を維持構築する。 ③教育公務員としての規範意識を醸成するとともに、風通しの良い職場環境を構築する。 ④働き方改革の視点に立ち長時間労働の解消に取り組む。	②スチュUDENTファーストの視点に立った教育活動。 ④職場環境や業務内容を見直し、働き方改革に取り組む。	②「カリキュラム・マネジメント」の視点を持ち、学びのオンライン化・デジタルを通じて多様な生徒一人ひとりに応じて個別最適化された質の高い学びを提供し、学習機会を最大限確保する。 ④会議回数の削減・会議時間の短縮に取り組み、会議開始時に会議終了時間を宣言し、1時間以上の会議をなくす。	②誰一人取り残さないそれぞれに必要な学びを確保する組織的な取組ができたか。 ④1時間以上の会議が減少したか。	②Classroomを用いて、映像授業や課題を配信し、家庭での学習機会の保障に努めた。また、短い授業時間の中で基礎学力の定着を図るため、TTや放課後の補習を多く取り入れたきめ細かな指導を行った。結果として昨年と同様の学力を定着させることができた。 ④当該グループ会議については、回数、会議時間ともに前年度より減らすことができた。また、会議の90%以上は1時間以内で終えることができた。	②オンラインでは、きめ細かな指導ができない部分もあり、オンライン上での学習コンテンツの拡充が必要である。 ④回数や時間を減らすことは達成できたが、資料のペーパーレス化や情報の共有などについては、改善点が多数あり、職員間で課題を共有し、解決に向けて取り組む。 ④サーバー内のフォルダ整理が必要。	(学校運営協議会) ②きめ細かな指導により基礎学力定着が図られたことは評価に値する。オンライン学習は、まだ新しい取り組みであることから、今後さらに充実させていくことが望ましい。 ②オンライン化については当社も試行錯誤をしているが、時間の有効活用や効率化の観点からも有益な場面も多いので、今後も推進いただければと思う。 ②オンライン・デジタル化対応ではやや課題が残ったように思えます。今後も予測される、感染症への対応や高度電子化への対応という視点からこの面でのハードや学習指導方法といったソフト面での充実強化が必須かと考えます。次年度以降への重要なテーマとして取り上げて頂ければと思います。	②ClassroomなどICTを活用して、休業中の家庭学習を充実させるよう努めた。授業においてもICTの活用を積極的に進めた。 ④会議・打ち合わせの回数を減らすと共に時間短縮に努め、会議の90%程度は1時間以内に終えることができた。 ④会議を密にならない形式を工夫して実施した。	②オンラインやICTの活用については、機器の使用だけで満足することなく、内容の工夫や充実を常に目指すべきである。 ②生徒のITスキルを向上させるために、新たな授業内容の開発を目指すべきである。 ④会議時間の短縮は、生徒への対応をより細やかにする為にも重要である。ただし、短時間でも教員間の情報共有がおろそかにならないように工夫する必要がある。